

陶磁器から見た昭和時代の秋田

— 秋田県内発見の統制陶磁器を中心として —

庄内 昭男*

1. はじめに

個人的に収集していた磁器小皿の底に<有58>の印があるのを見つけていた。その印が何を意味するのか気にしていたが、長い間手がかりが無いままであった。

ところが、2006年に岐阜県美濃陶磁資料館を訪れた際に、『戦時中の統制したやきもの』の展示図録を見て、統制陶磁器と呼ばれているものの一つであることがわかった。統制陶磁器とは、戦時色が強まった昭和16年に配給物資の量の確保と価格の安定を図って、日本国内の産業生産品に記号・番号を付していったものである。昭和20年まで続いていった。記号・番号は産地の略号と数字との組み合わせになっており、生産者毎に一種類の記号・番号が記されているものである。印は主に器の底部に、青色や緑色の印字や凹や凸となる型で示されている。

2. 秋田県内で収集した統制陶磁器

『戦時中の統制したやきもの』の図録では、<岐・〇〇番号>のついた美濃焼の製品153点を載せており、資料写真の下に記号・番号と生産者名・住所が記載されていた。そこで記号・番号によって陶磁器の生産地と生産者が特定できることが分かった。これまで疑問に思っていた<有58>は佐賀県有田産のものであることが予想できた。

そこで、<有58>以外にも記号・番号が付されたものを見つけさえすれば、戦時中という限定的な期間ではあるが、県外から搬入されて県内で使用された陶磁器の動きがとらえられるのではという考えにおよんだ。手始めに、当館の館藏品の中に記号・番号が付されたものがあるかどうか、収蔵資料をさがしてみたが、見つけることができなかった。

意を決して2007年春から古美術店やリサイクル

ショップなどで手当たり次第に記号・番号に注目して資料を探して見ることにしたが、予想をこえて県内各地で、多くの統制陶磁器に出会うことができた。最初は小皿が目についたが、その後、茶碗・大皿、そして飯櫃、湯たんぽなどが確認できた。収集は数枚単位で行っていたが、時代の特徴を表す形や文様などが頭に入ってきたことで、容易に見当を付けることができるようになり、2年間で収集した数も300点前後までになった。

量的には美濃地方で生産されたことを表す<岐>がついたものが多くなっていったが、調査のきっかけとなった『戦時中の統制したやきもの』の展示図録に記載された153点以外の番号をもつものが出てきた。そこで、番号と生産者の適合について多治見市教育委員会に問い合わせたところ、美濃産ではすべての番号と、生産者が対応できる一覧表が作成されていることを紹介してもらった。その後、佐賀県では『近現代肥前陶磁銘款集』の記載の中に、有田産のものが整理されているのを知った。

以下、平成2009年秋までに収集した統制陶磁器について、統制番号と器種別分類で一覧表を作成した。



記号・番号を印字で示す



記号・番号を凸で示す



記号・番号を凹で示す

*秋田県立博物館

表A 収集した統制陶磁器

	番号	印字	型(凸)	押(凹)	皿	形の特徴	絵柄	備考
岐	122	M			小皿	丸	クロム平行線	○ 県南
岐	163	A			小皿	花卉	蘭	○ 県中
岐	319	M	○		小皿	丸	クロム平行線	△ 県南
岐	330	許27277	○		小皿	輪花	ダリヤ	△ 県南
岐	333		○		小皿	輪花	山水	△ 県南
岐	338	A			小皿	丸	唐人・船	* 県南
岐	346	A			小皿	輪花	山水	* 県南
岐	353		○		小皿	輪花	山水	△ 県中
岐	353		○		小皿	輪花	山水	* 県中
岐	385	M			小皿	丸	海老	* 県南
岐	393	A			小皿	丸	山水	△ 県北
岐	444	A			小皿	丸	梅ねじり	△ 県南
岐	444		○		小皿	丸	梅ねじり	△ 県南
岐	445	M			小皿	丸	山水	○ 県中
岐	466	M			小皿	丸	梅花樹	△ 県南
岐	466	M			小皿	丸	山水	△ 県南
岐	470	A		○	小皿	輪花	山水	△ 県中
岐	470				小皿	輪花	山水	* 県北
岐	471	A			小皿	輪花	山水	△ 県南・中
岐	473	K			小皿	輪花	山水	△ 県南
岐	473	A			小皿	輪花	山水	* 県中
岐	474	A		○	小皿	丸	山水	△ 県南
岐	47?				小皿	輪花	山水	* 県北
岐	510	許27271	○		小皿	輪花	苺	△ 県南
岐	697	A			小皿	丸	葡萄	* 県南
岐	877	K			小皿	丸	花柄	* 県南
岐	877	A			小皿	丸	山水	* 県南
岐	881	K			小皿	輪花	大黒様	* 県南
岐	898	K			小皿	丸	山水	* 県南
岐	909	A			小皿	輪花	南天	* 県南
岐	913	A			小皿	輪花	山水	△ 県南
岐	915	K			小皿	輪花	山水	* 県南
岐	917	A		○	小皿	輪花	梅	* 県南
岐	917				小皿	隅丸方形	蟹	* 県南
岐	918	A		○	小皿	輪花	山水	* 県南
岐	927				小皿	花卉	葡萄・葉	○ 県南
岐	927	M		○	小皿	花卉	つる	△ 県南
岐	930				小皿	輪花	麦	△ 県中
岐	942	M			小皿	輪花	梅	△ 県南
岐	947	A		○	小皿	輪花	山水	△
岐	957	許27934			小皿	五弁	茄子	*
岐	998	A			小皿	輪花	山水	* 県南
岐	1008	M			小皿	花卉	樹	○ 県南
岐	1093	M		○	小皿	山形	富士山	○ 県南
岐	1112			○	小皿	丸	寿	△ 県南
岐	1129			○	小皿	輪花	葉	* 県南
岐	1137				小皿	輪花	柏	○ 県南
岐	□99	A		○	小皿	丸	山水	* 県南
岐	?	A		○	小皿	隅丸方形	竹	* 県南
岐	1109				中皿	丸	クロム平行線	△ 県南
岐	930	A		○	中皿	輪花	庭	* 県南
岐	945			○	中皿	花卉	笹	△ 県南
岐	1107			○	中皿	八角	かぶと	△ 県南
岐	1122			○	中皿	輪花	山水	△ 県南
岐	1122				中皿	花卉	朝顔	○ 県南

岐	1019	A		○	中皿	隅丸方形	なす	◎	県南
岐	1111			○	中皿	花卉	果樹	△	県南
岐	?			○	中皿	花卉	笹	△	県南
岐	1107			○	中皿	花卉	蘭	*	県南
岐	11?			○	中皿	丸	蔦	*	県南
岐	?				中皿	隅丸方形	松と青海波	◎	県南
岐	912	A			大皿	丸	山水	△	県中・北
岐	1014	A			大皿	丸	山水	△	県中・南
岐	907	A			生盛	花卉	山水	△	県中
岐	983	A			生盛	花卉	山水	△	県南
岐	978	A			生盛	花卉	山水	△	県南
岐	960	A		○	小鉢	輪花	ばら	*	県南
岐	1123			○	小鉢	隅丸方形	笹	*	県南
岐	1102			○	小鉢	隅丸方形	松と青海波	△	県南
岐	1112			○	小鉢	花卉	苺	*	県南
岐	957				井	花卉	蔓	*	県中
岐	81		○		飯茶碗			*	県中
岐	117		○		飯茶碗			*	県中
岐	376		○		飯茶碗		色絵かえで	*	県中
岐	1104	M			飯茶碗		なでしこ	△	県南
岐	145	K			飯茶碗		船	*	県南
岐	122	A			湯呑	丸碗	笹	*	県南
岐	132	A			湯呑	丸碗	花	△	県中
岐	302	A			湯呑	丸碗	水仙	*	県南
岐	382	M			湯呑	円筒	富士山	*	県南
岐	427	A			湯呑	円筒	亀甲紋	*	県南
岐	427	A			湯呑	円筒	花	*	県南
岐	479	M			湯呑	円筒	彼岸花	*	県南
岐	828	A		○	徳利			△	県南
岐	1026				飯櫃			*	県中
岐	833	A			水筒			△	県南
岐	556		○		湯たんぽ			*	県南
岐	558			○	湯たんぽ			*	県南
岐	570		○		湯たんぽ			*	県南
瀬	790	A			飯茶碗		山水	*	県北
瀬	41	A			湯呑		寿の文字	△	県南
瀬	932	A			小皿	輪花	梅樹	△	県南
瀬	253				小皿	輪花		△	県中
瀬	207	A			中皿	丸	クロム平行線	△	県南
品	57	A			刺身皿	あわび貝形	山水	◎	県中
品	78	A			刺身皿	長円角張り	山水	△	県南
品	56			○	中皿	方形	花	*	県北
品	57	A			醤油差	長円角張り	山水	△	県南
品	128		○		醤油差	丸	山水	△	県南
有	58	A			小皿	輪花	果樹	*	県中
有	15	A			小鉢	三弁	山水	△	県中
有	15	A			小鉢	五弁	山水	△	県中
有	16	A			湯呑		唐人	*	県南
有	41	A			湯呑		唐人	*	県南
有	6	A			醤油差		すすき	*	県中
波	22	A			飯茶碗		山水	△	県南
万	135			○	湯呑	蓋付き		△	県南

凡例 印字の色は青と緑色、黒色に分かれ、青色はA、緑色はM、黒色はKで表示。

備考の* △ ○ ◎は収集個数

*は1点、△は2～4点、○は5点以上、◎は10点以上

採集地は県南・県中・県北に分けた。県南は大仙市・美郷町・仙北市、県中は秋田市・井川町、県北は能代市・北秋田市である。

3. 暮らしの中の統制陶磁器

2年ほどの収集期間であったが、県内で集めたものは106種類におよんでいる。しかし、すべてが古物商やリサイクルショップで手に入れたものだけに、直接秋田に搬入されたものか、あるいは人を介して間接的に秋田に入ってきたものか、定かではないというのが実態である。たしかに暮らしの中で使用されていたという裏付けのため、以下の二例を通じて、暮らしとの関係を想定する手がかりとした。

①秋田市久保田の遺跡調査で出土した統制陶磁器

秋田市千秋久保田町で都市計画道路工事のために事前発掘調査が実施された。調査地区は、久保田城の三の丸とよばれていた台地の東側にあたり、現状は台地の縁辺に沿って人家が立ち並び、その東側には幅5mの市道が南北に走っている。江戸時代には外堀の一角にあたり、護岸にともなう杭列が確認されている。外堀は城が廃止された近代以降に埋め立てられた。明治時代以降は市道に沿って民家や商店がち、秋田駅に近いことから商店街へと変貌していったものである。外堀を埋めた造成土からは、江戸後期から明治にかけての有田産・美濃瀬戸産の陶磁器が出土しており、さらに昭和のものも混在していた。造成土に各時代のものが混在していたのは、調査地が崖下にあたり、その台地の上では、江戸時代に別当院という寺が、明治後半から戦時中には第17連隊の司令部・衛戍病院などの建物群が、戦後は県立中央病院が建てられており、斜面近くでの不要物の廃棄が重なり合ったこと、人為的あるいは自然崩落があって、江戸後期から昭和にかけての陶磁器が混在したと思われる。

出土陶磁器は数百点におよんでいる。発掘にあたった秋田市教育委員会から資料を借り受け、記号・番号をもつ統制陶磁器をさがしてみたが、確認できたのは5点であった。岐阜産の<岐>の記号・番号をもつものが2点と、瀬戸産の<瀬>が1点、有田産の<有>が1点、産地不明のものが1点であった。以下の表にそれぞれの特徴をまとめた。

この5点の統制陶磁器とともに、これまで個人

表B

	番号	表示	器種	形の特徴	絵柄
岐	17	印字墨	不明	高台	
岐	69	型凸	碗	高台	
瀬	729	印字青	碗	高台	花柄
有	32	印字青	皿		
不明	? 15	印字青	不明		

で収集してきた統制陶磁器と類似したものがあるのを確認した。それは磁器の皿や井であり、「秋田県立中央病院」と使用した場所が書かれていた。3点の皿には緑色のクロム顔料で、内底に病院名、口縁部にそって平行線が引かれており、あと1点の皿には青色のコバルト顔料で同じように病院名の記述と平行線が引かれているものである。これまで、緑色の平行線が引かれたものには、<岐><瀬>の記号に番号が入ったものを収集していた。岐阜や瀬戸の産地では、工場用のものとして分類している。この久保田町で検出された「秋田県立中央病院」が書かれたものは、戦時下で工場用として製品化されたものと同じ系統のものと考えられる。今回の出土品には菱形の囲みに<MINO>の記載がある。ただし、統制陶磁器に特有な記号・番号が入っていない。現在は販売していない県南の酒の銘柄を記した杯を包んでいた薄紙が手には入った。そこには、美濃の業者が名前入りのやきものの発注を受けていることが記載されており、包紙は宣伝の役割をはたしていたものである。したがって、病院名のある皿や井は、戦後になって美濃に発注したものと思われる。

②昭和の暮らしと陶磁器

1999年に95歳で亡くなった祖父の家の陶磁器をもらい受けることにした。祖母ともに質素な暮らしで、ものを大事にしていたことから、戦前戦後のものが、残されていた。

生活の足跡をたどりながら、生活用具としての陶磁器の流れをとらえてみたい。

祖父は、昭和12年に秋田市大町五丁目で洋服業として独立した。昭和3年に生まれた長女はじめ昭和12年生まれの次男まで、夫婦と二男二女の家族構成であった。戦争時は長女が学生で、下に小・中学生を抱えた生活であった。戦後になって

昭和24年に嫁いだ長女を除いて、夫婦と育ち盛りの学生3人の暮らしであり、長男・次男・次女は数年を経て社会人となっていく。昭和38年には、大町を離れ、秋田市新屋に住居を移している。

残された焼きものの中で統制陶磁器が1件あり、他に戦時下にかかわるものとして、許可番号のある皿があった。もっとも目についたものは、やきもの高台内に商店名がかかれた小皿や向付であった。模様を見ると、統制陶磁器と似通っており、昭和30年代に暮らし向きがやや豊かになったころのものと思われる。当時の個人商店では、盆や暮れのお使いものとして、日常使用する陶磁器を配っており、それが祖父の家に残されていたものであろう。他に木箱に入ったままのものもあったのが、いずれも結婚式などの引き出物であり、中に noritake と生産者名が書かれたものもあった。昭和40年代に娘や息子の結婚式に際して渡されたものと思われる。

ところで、統制陶磁器は、〈万58〉の記号番号がある湯呑であった。記号からは万古焼のものと推定される。酒もたばこもたしなまない祖父にとっては、お茶が唯一の贅沢品であったと思われる。

表C

	番号	表示	器種	形の特徴	絵柄
万	158	型凹	茶碗	丸	なし
許		印字赤	皿	隅丸方形	花柄

4. まとめ

個人的な収集からは、〈岐〉の印をもつ美濃産で、番号が400番台と900番台が数量でまさっている。多治見市教育委員会で作成したリストとの照合では、岐阜県土岐市で生産されたものが多い傾向が浮かんできた。

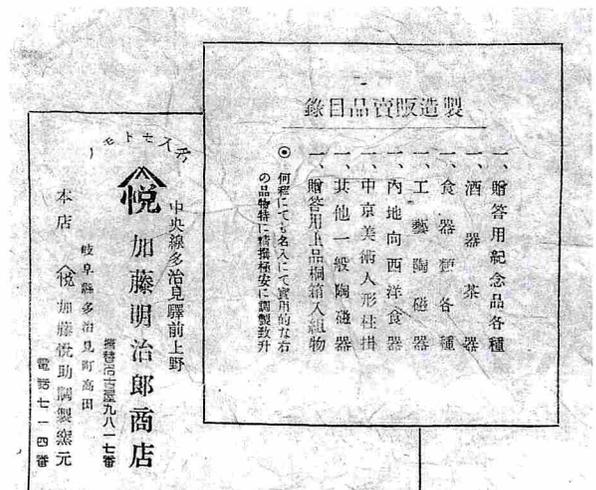
ここ10年間で実施された久保田城下町の発掘調査で出土した陶磁器をみても江戸時代後半から明治にかけては、美濃産の移入が多い傾向が示されており、奥羽本線が敷設された1905年以降、鉄道網の整備が美濃産の移入に拍車をかけ、さらに戦前から戦時下においても引き続き美濃産の移入が続いていったものと推測される。特に秋田県では第二次世界大戦を境に陶器生産を廃業した窯があった中で、美濃産の販売攻勢は戦後も続いており、

病院用の食器には、統制番号を取り除いて、英語で産地表示をしたものがあらわれる。また、裏に商店名が書かれた焼きものには、戦前から統制陶磁器へと文様が継続しているものや、統制陶磁器で使用された文様を一部簡略したものなどがあり、美濃産の陶磁器は、戦後復興と消費の拡大を見越して施設用食器や贈答品に販売の重き置き、秋田の人々の暮らしの中に深く浸透していったものと見られる。

末筆ながら、岐阜県の統制陶磁器一覧をご紹介いただいた多治見市教育委員会岩井立弥氏、久保田城跡の陶磁器の閲覧に便宜をはかっていただいた秋田市教育委員会の西谷隆氏、収集にご協力いただいた秋田市岡田茂廣氏に感謝申し上げます。

{文 献}

- 岐阜県陶磁資料館 展示図録『戦時中の統制したやきもの』2001年
- 多治見市教育委員会 桃井勝「Ⅲ 工場記号番号」『多治見市文化財保護センター研究紀要 第3号』1997年
- 九州陶磁資料館『近現代肥前陶磁銘款集』2001年
- 秋田市教育委員会『久保田城跡』2008年



包紙 (13.7×12.8cm)

個人収集資料
美濃産 湯たんぼ・水筒



個人収集資料
美濃産 飯茶椀・湯呑

